

品目別機械処理リサイクル方法

廃プラスチックを再資源化(マテリアルリサイクル)へ
品目別に分別後、圧縮梱包・加熱減容・粉碎し、中国に輸出

循環型社会の構築が急務となる中、株式会社オキセイ産業は同社独自の品目別機械処理リサイクル方法により、県内企業の建設資材等、産業廃棄物ソリューションを提供している。

建築木材の90～95%を再資源化

同社が扱っている廃棄物のうち、建築木材等は分別不純物を取り除いた後、破砕機でチップ化。木材チップはセメント工場等に運ばれ、燃料代替物として活用される。建築木材に関しては同社に持ち込まれたうちの90～95%がサーマルリサイクル用として利用。



木くず破砕後

セ社のネットワークを活用

廃プラスチックは品目別に分別されそれぞれの処理方法で処理後、中国に輸出。現地でプラスチック原料として再資源化されている(マテリアルリサイクル)。

ビニール類やミラーマット(包装材)、PPバンド(梱包用結束ひも)もそれぞれ品目別に分別。それぞれ圧縮機で圧縮梱包し、中国に輸出。緩衝材・断熱材として使われる発泡スチロールや住宅用断熱材として利用されているスタイロフォームは分別後、それぞれ加熱減容機で加熱処理し容量を小さくしたインゴット(塊)に減容化し、中国に輸出される。



ミラーマットプレス



スタイロフォームインゴット

このほか、塩ビ管、フレックス管、電気管といった管類はそれぞれ品目別に破砕機にかけて粉碎後、中国に輸出。



塩ビ粉砕後

このように同社が中国へ輸出できるのは、同社が株式会社セイコーインターナショナル(東京都)の沖縄代理店という理由がある。セ社のパートナー企業として、ネットワークを活用しながら効率的なリサイクル方法に取り組んでいるのだ。

廃プラスチックを燃料代替物へ活用

さらに、同社ではマテリアルリサイクルでは活用できない廃プラスチック(塩素系除く)のうち、主に軟質系を県外のセメント工場で燃料代替物(サーマルリサイクル)として活用してもらうため移出し始めた。



軟質系廃プラスチック

廃石膏ボードのリサイクル急務

これらの品目とは異なり、課題とな

っているのが廃石膏ボードの扱いだ。というのも、石膏ボードは1970年代後半以降、防火性・遮音性・吸音性に優れていることから急速に普及。今後、建物の老朽化で大量に廃棄物として出されると予想されている。

一方、廃石膏ボードは平成22年4月以降、県内でも管理型産業廃棄物最終処分場でしか処分できない規則となった。しかし、管理型最終処分場は限られているため、環境省を中心に石膏ボードのリサイクル化への検討が進められている。



石膏ボード処理後(粉)

同社では、石膏(粉)とし、軟弱地盤改良材の原料として活用してもらうべく県内業者に提供を始めた。このほか、NPO法人石膏ボードリサイクル推進ネットワークに加盟。全国の同業者と協力し、石膏ボードの新しいリサイクル用途を生みだし、需要を喚起する製品作りに取り組んでいる。



石膏ボード粉砕分離機

お問い合わせ先

DATA

株式会社 オキセイ産業

〒901-2133 沖縄県浦添市城間1-12-8

TEL:098-876-3098 FAX:098-874-4441

URL: <http://www.okiseisangyo.co.jp>

備考: 営業種目=環境事業(産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物処分業、特別管理産業廃棄物収集運搬業、一般廃棄物収集運搬業)、解体工事、コンクリート打設、ビル清掃